

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	28人	国語B	28人
② 算数A	28人	算数B	28人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

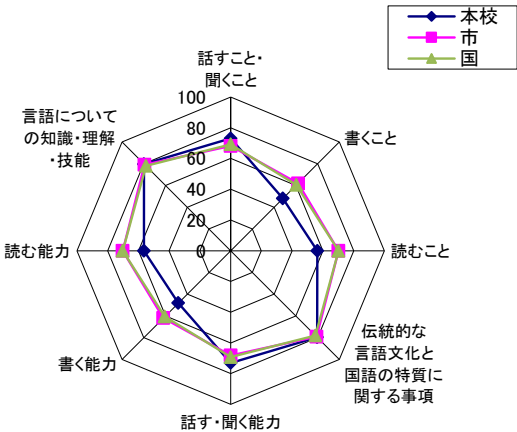
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

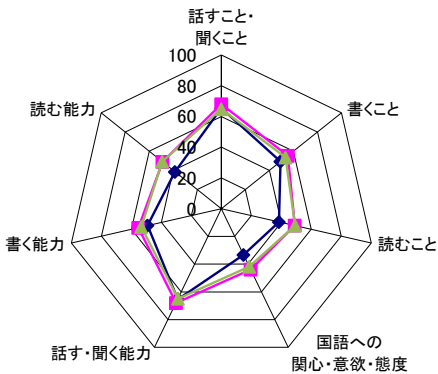
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.1	68.2	69.2
	書くこと	48.1	62.0	60.6
	読むこと	56.4	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.7	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	73.1	68.2	69.2
	書く能力	48.1	62.0	60.6
	読む能力	56.4	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	79.7	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	65.4	68.0	64.9
	書くこと	49.2	55.3	53.4
	読むこと	38.5	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	33.3	43.9	41.7
	話す・聞く能力	65.4	68.0	64.9
	書く能力	49.2	55.3	53.4
	読む能力	38.5	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

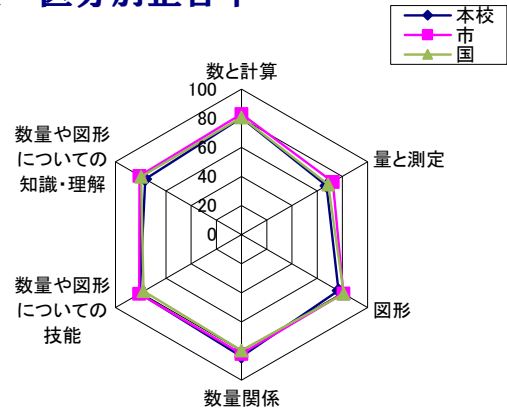
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○学級文集のタイトルを決める話し合いにおける野村さんの報告の説明として適切なものを選ぶ問題で、正答率が全国平均よりやや高かった。 ●目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことができるかを問う問題の正答率が低かった。	・自分の考えが明確に伝わるように説明するためには、話す内容や話し方などが大切なことを継続して指導する。特に内容については、抑えるべきポイントなどを示しながら指導していきたい。
書くこと	○自分の考えを明確に表現するために、文章の構成をどのように工夫すればよいかを判断する問題で、正答率が全国平均より高かった。 ●「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉が狐だと考えたわけをまとめて書く問題で、正答率が全国平均より低かった。	・叙述に着目して、登場人物の言動や心情の変化を捉えたり、物語全体のメッセージを読み取ったりすることができるように指導していきたい。
読むこと	○学校新聞を書くために、「時の記念日」についてのどの資料を読めばよいのかを判断する問題で、正答率が73.1%であった。 ●グループの話し合いを通して見つけた俳句のよさとして適切なものを選択する問題で、正答率が全国平均より低かった。	・文の冒頭部分だけを読んで解答していると考えられる児童が多いことから、まず文全体を最後まで読んで理解することが必要だということを意識させていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「事務室」や「指示」を読むことができるかを問う問題で、正答率が100%であった。 ●俳句の情景を表す表現を読み取ることができるかを問う問題で、正答率が全国平均より低かった。	・比喩表現や擬態語、擬声語からイメージを広げる活動を取り入れ、想像力を養うような指導をしていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

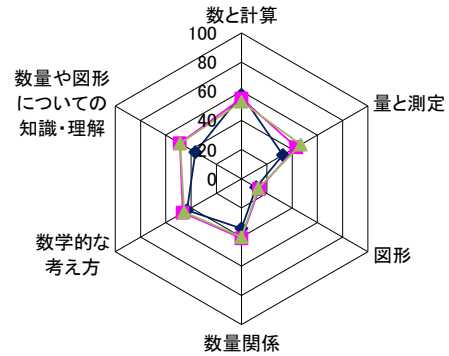
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	80.3	82.9	80.6
	量と測定	67.3	72.5	68.8
	図形	76.9	80.8	81.1
	数量関係	83.8	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	80.8	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	76.4	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	57.7	55.1	52.8
	量と測定	32.7	43.4	47.0
	図形	11.5	13.8	13.2
	数量関係	34.1	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	43.2	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	36.5	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○1m当たりの値段が分かっている、リボンを2m買ったときの代金と3m買ったときの代金を求める問題で、正答率が100%であった。 ● 60×0.4 を、 60×4 を基にして考える問題で、正答率が全国平均より低かった。	・ 60×4 と 60×40 の積を比較するなどして、乗数と積との関係を確認する。その後で乗数が小数になった場合を考えさせていくようにする。
量と測定	○重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ問題で、正答率が全国平均よりやや高かった。 ●示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ問題で、正答率が全国平均より高かった。	・三角形の面積の公式の意味を確認するとともに、底辺と高さがそれぞれ等しい三角形については、図形の向きや形に依存することなく面積が等しくなるということも理解できるように指導していきたい。
図形	○立体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ問題で、正答率が全国平均よりやや高かった。 ●円を使って正五角形をかくとき、円の中心の周りの角を何度ずつに分割すればよいかを書く問題で、正答率が全国平均より低かった。	・円を用いて正多角形をかく活動を設け、正多角形の性質を見いだしたり振り返ったりしながら理解を深められるように指導していきたい。
数量関係	○資料から、二次元表の合計欄に入る数を求める問題で、正答率が全国平均より高かった。 ●割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題で、正答率が全国平均より低かった。	・棒グラフや折れ線グラフ、帯グラフや円グラフなど、それぞれのグラフの特徴を知り、使用する目的に応じて使い分けることの意義を理解できるように指導していきたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「五年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」という質問に対して、肯定割合が全国平均より高かった。学校課題として取り組んでいる授業における振り返りが、児童にも浸透していることがうかがえる。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」という質問に対して、肯定割合が全国平均より高かった。話し合い活動が有効であると感じている児童が多いという特徴を、普段の授業からペアやグループで話し合う活動を多く取り入れていくことで生かしていく。

○「読書は好きですか。」という質問に対して、肯定割合が全国平均より高かった。読書の習慣が身に付いているので、今後も奨励していく。

○「家の人と将来のことについて話すことがありますか。」という質問に対して、肯定割合が全国平均より高かった。多くの児童が将来について家庭で話しているという実態をキャリア教育に生かしていく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。」という質問に対しては、肯定割合が全国平均より低かった。話し合ったことを全体に向けて話すことに対しては苦手意識をもっている児童が多いことが分かる。日々の授業の中で励まし、自信をもつことができるよう支援していきたい。

●「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。」という質問に対して、肯定割合が全国平均より高かった。この結果からも多くの児童が自分の意見を伝えるということに対しては難しいと感じていることが分かる。説明をするときの順序や作文するときのポイントなどを示し、苦手意識を取り除くことができるような支援をしていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業の最後に、本時のまとめを行って全員で確認し、一人一人がめあてに合った振り返りを自分の言葉でノートに書く時間を設けている。	「五年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」という質問に対して、肯定割合が86.7%と、全国平均を10.5ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の調査結果から、量と測定に関わる領域の平均が32.7%と全国平均を14ポイント下回った。	復習により定着を図る学習の充実	朝の学習の時間を漢字と計算の練習と位置付け、ステップアップシート等を活用して復習させ、定着を図る。